

技術書

— はじめてのやつ —

hoge 著

2018-10-08 版 発行

まえがき

本書を手にとっていただき、ありがとうございます。

本書は、XXX についてわかりやすく解説した本です。この本を読めば、XXX の基礎的な使い方が身につきます。

【本書で得られること】

- XXX についての基礎的な使い方

【対象読者】

- XXX について興味がある人

【前提知識】

- Linux についての基礎知識
- 何らかのプログラミング言語の基礎知識

なお内容に関するお問い合わせは、こちらまでお願いします。

- URL: <https://www.example.com/>
- Mail: support@example.com
- Twitter: @example

目次

まえがき	i
第 1 章 イントロダクション	1
1.1 サンプルテキスト	1
1.2 画像テスト	1
第 2 章 Re:VIEW サンプル	3
2.1 フォーマット	3
コメント	3
章と節	3
箇条書き	3
定義リスト	4
コード	4
画像	5
文字装飾	6
脚注	6
コラム	6
表	6
リンク	6
引用	6
インデント、改行、改ページ	6
Raw データ	6
独自命令	6
第 3 章 markdown to Re:VIEW テスト	9
あとがき	11
著者紹介	11

第 1 章

イントロダクション

1.1 サンプルテキスト

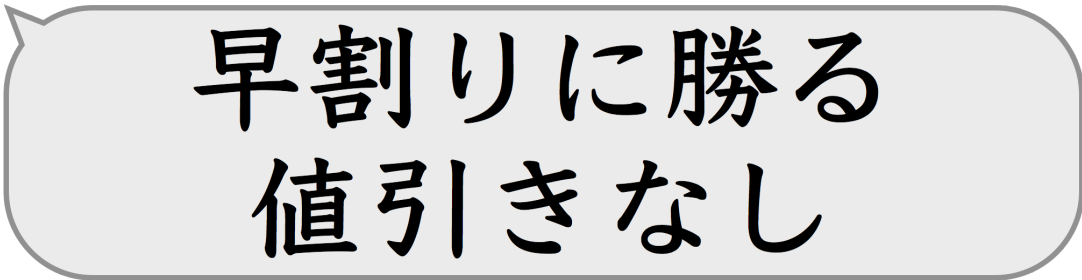
サンプルテキスト。次の行で 1 行あたりの文字数が確認できます。

一二三四五六七八九十一二三四五六七八九十一二三四五六七八九十一二三四
五六七八九十一二三四五六七八九十

埋め込みコードの例。次の行で 1 行あたりの文字数が確認できます。

```
123456789_123456789_123456789_123456789_123456789_123456789_123456789_123456789_  
一二三四五六七八九十一二三四五六七八九十一二三四五六七八九十一二三四五六七八九十
```

1.2 画像テスト



早割りに勝る
値引きなし

図 1.1: テスト用画像

第 2 章

Re:VIEW サンプル

章の概要説明は、このように「`//lead{ ... //}`」で囲みます。海外の本によくある、ほかの本からの引用を冒頭に置く場合も、これを使うといいでしょう。

2.1 フォーマット

詳しくは <https://github.com/kmuto/review/blob/master/doc/format.ja.md> を参照してください。

コメント

行コメントは「`#@#`」です。ただし行頭でしか使えません。

範囲コメント（HTML の「`<!-- -->`」や CSS の「`/* */`」に相当するもの）はありません。

章と節

章（チャプター）は「`=`」で始め、節（セクション）は「`==`」で始め、小節（サブセクション）は「`===`」で始めます。ただし Re:VIEW では、章（チャプター）ごとにファイルを分割することに注意してください。1 つのファイルに複数の「`=`」を含めることもできますが、お勧めしません。

節（セクション）や小節（サブセクション）に「`=={chapsec}`」のようなラベルをつけると、他の場所から「`章と節`」のように参照できます。ラベルをつけない場合は、「`コメント`」のように節タイトルや小節タイトルをつなげて階層を明示します。

章（チャプター）を参照する場合は、ラベルではなくファイル名を使います^{*1}。たとえばファイル名が「`chap01-intro.re`」なら、その章は「第 1 章「イントロダクション」」や「第 1 章」で参照できます。

箇条書き

- 「`*`」で始めると番号なし箇条書き
- 行頭に半角空白が必要なことに注意

^{*1} これが、1 つのファイルに複数の章（チャプター）を含めるのを勧めない理由です。

－ 入れ子は「**」や「***」にする（インデントはしない）

1. 「1.」「2.」…で始めると番号つき箇条書き
2. 行頭に半角空白が必要なことに注意
3. 「*」と違って、入れ子にできないことに注意（え～！）
4. 「a.」「b.」…で始めても、アルファベットにならないことに注意（え～！）

間違えやすいので繰り返しますが、**行頭に半角空白が必要です**。

* 行頭の半角空白がないと、このように箇条書きにはなりません。

定義リスト

コード

コードは「`//list[ID][説明][言語名]{`」と「`//}`」で囲みます（[説明]と[言語名]は省略可能）。コードには「リスト X.X」のような番号がつき、たとえば「リスト 2.1」のように参照できます。

リスト 2.1: フィボナッチ数列

```
def fib(n)
  return n <= 1 ? n : fib(n-1) + fib(n-2)
end
```

番号をつける必要がない場合は「`//emlist[説明][言語名]{`」と「`//}`」で囲みます（[説明]と[言語名]は省略可能）。コードに「リスト 1.2」のような番号をつけたくない場合に使います。

```
## フィボナッチ数列
def fib(n)
  return n <= 1 ? n : fib(n-1) + fib(n-2)
end
```

行番号をつけるには、「`//list`」や「`//emlist`」のかわりに「`//listnum`」や「`//emlistnum`」を使います。

リスト 2.2: フィボナッチ数列

```
1: def fib(n)
2:   return n <= 1 ? n : fib(n-1) + fib(n-2)
3: end
```

```
1: ## フィボナッチ数列
2: def fib(n)
3:   return n <= 1 ? n : fib(n-1) + fib(n-2)
4: end
```


なお、コードの [説明] は省略するけど [言語名] は指定したい場合は、「`//emlist[言語名]`」ではなく「`//emlist[[言語名]]`」と書きます。このとき、Re:VIEW のバグにより本文とコードとの間に余計な空行が入ってしまいますが、starter では LaTeX マクロを上書きしてこの症状を回避しています。

画像

「images」ディレクトリに置いた画像ファイル（PNG、JPG、GIF）を、本文に取りこめます。そのためには「`//image[ファイル名][説明文字列][倍率]`」と書きます。ファイル名には拡張子をつけません。また [説明文字列] と [倍率] は省略できます。

次の例では、倍率を指定せずに画像を取りこんでいます。今回は本文の幅より画像の幅のほうが大きいので、本文の幅にあうように画像が縮小されています。




図 2.1: サンプル画像（倍率指定なし）

次の例では、倍率として「0.5」を指定しています。この場合、画像の幅は本文の幅の半分になります。もとの画像の幅の半分ではないことに注意してください。




図 2.2: サンプル画像（倍率 0.5 倍）

同じ章（チャプター）の画像を参照するには、たとえば「図 2.1」とします。他の章の画像を参照するには、章 ID を使ったたとえば「図 1.1」とします。

章（チャプター）ごとに画像フォルダを分けられます。それには「images/chap01-intro」「images/chap02-review」のようにサブフォルダを作り、そこに画像を格納します。Re:VIEW はコンパイル時に、まず章ごとのサブフォルダ内で画像を検索し、なければ images フォルダを検索します。

印刷用には、高解像度の画像を用意したほうがいいでしょう。詳しくは「ワンストップ！ 技術

同人誌を書こう」第 8 章を参照してください。

文字装飾

(TODO)

脚注

(TODO)

コラム

(TODO)

表

(TODO)

リンク

(TODO)

引用

(TODO)

インデント、改行、改ページ

(TODO)

Raw データ

(TODO)

独自命令

Re:VIEW では、ファイル「review-ext.rb」を用意すると、独自の命令を用意できます。命令には、「`//list{...}`」のようなブロック命令と、「`...`」のようなインライン命令の 2 種類があります。今回はすでに review-ext.rb が用意されているので、参考にしてください。使用例は次の通り。

改ページ（インライン命令）：

右寄せ：

aaa

bbb

ccc

中央揃え：

xxx

yyy

zzz

第 3 章

markdown to Re:VIEW テスト

md2review を入れてみた。

ビルド結果はどうなるか。

試しに table を入れてみる。

head1	head2	head3
コンテンツ 1	こんてんつ 2	こんてんつ 3
コンテンツ 1	こんてんつ 2	こんてんつ 3
コンテンツ 1	こんてんつ 2	こんてんつ 3

Let's build!

あとかき

いかがだったでしょうか。感想や質問は随時受けつけています。

■ 著者紹介

ジョン・スミス

某所で働くエンジニア。

技術書

はじめてのやつ

2018 年 10 月 8 日 ver 1.0

著 者 hoge

印刷所 ○○印刷所

(C) 2018 hoge